



Sylvie Courtine-Denamy

シルヴィ・クルティーヌ＝ドゥナミ

Création et dé-création : une “folie d’amour” selon l’interprétation de Simone Weil
「創造と脱・創造 シモーヌ・ヴェイユの解釈による“愛の狂気”」

シルヴィ・クルティーヌ＝ドゥナミ (Sylvie Courtine-Denamy) パリ政治学院政治研究所 (CEVIPOF) 客員研究員。シモーヌ・ヴェイユの研究やハンナ・アレントの研究・翻訳のほか、エマニュエル・レヴィナス、ハンス・ヨナス、レオ・シュトラウスなどユダヤ系思想家の研究、エリック・フェーゲリンのフランスへの翻訳・紹介など、ドイツ・フランス・アメリカをまたぐ20世紀の思想家の関係について広範な研究を進める。主著に『暗い時代の三人の女性：エディット・シュタイン、ハンナ・アレント、シモーヌ・ヴェイユ』（晃洋書房、2010年）、『シモーヌ・ヴェイユ：天の根を求めて』（萌書房、近刊）、『世界への配慮：ハンナ・アレントと何人かの同時代人との対話』（未邦訳）、『問われる顔：像から倫理へ』（未邦訳）ほか。

日時 2011年11月11日（金） 18:30～20:00

場所 東京大学駒場キャンパス18号館4階コラボレーション・ルーム1

司会 原 和之（東京大学） | 討論者 鈴木 順子（明治学院大学非常勤講師）

使用言語 フランス語・日本語

入場自由 登録不要

● 東京大学グローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター」(UTCP)

University
of Tokyo
Center
for
Philosophy